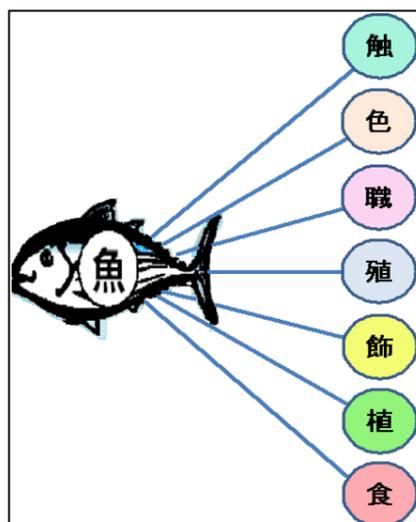


愛南町発！「ぎょしょく教育」—「ぎょしょく」を柱に地域活性化を目指して！—

愛南町は、消費者の「魚離れ」が問題となっている中で、新しい水産版の食育コンセプト「ぎょしょく教育」に取り組んでいます。「ぎょしょく教育」は、水産物に対する正しい知識、興味・関心を増大し、地域水産業に対する理解の拡大を通じて地域理解を深めるとともに、学校給食への町産水産物の販路開拓としての効果を挙げています



水産版食育コンセプト「ぎょしょく教育」とは

愛南町が取り組む「ぎょしょく教育」は、従来取り組まれてきた魚を食べることに特化した「魚食普及」とは異なり、魚の生産や流通から消費や環境、文化など、魚をめぐる諸事象を体系的に学習すること、そして、五感を通じた実体験や本物に触れることを特徴としています。「ぎょしょく」は、①魚触(魚に触れる学習)、②魚色(魚そのものの情報の学習)、③魚職(「とる漁業」の学習)、④魚殖(「そだてる漁業」の学習)、⑤魚飾(魚に関する伝統、文化の学習)、⑥魚食(魚の味を知る学習)、⑦魚植(魚をめぐる環境の学習)の7つのコンセプトを意味しています。

実際の授業では、7つのコンセプトのうち、TPOに応じていくつかを組み合わせた授業を展開しています。この「ぎょしょく教育」では、授業を通じて水産物に対する正しい知識、興味・関心の増大を目指す側面と、地域水産業に対する理解の拡大を通じて地域理解を深めるという側面とがあります。



「魚職」の体験学習。実物の竿を使い、カツオの一本釣りを模擬体験します。



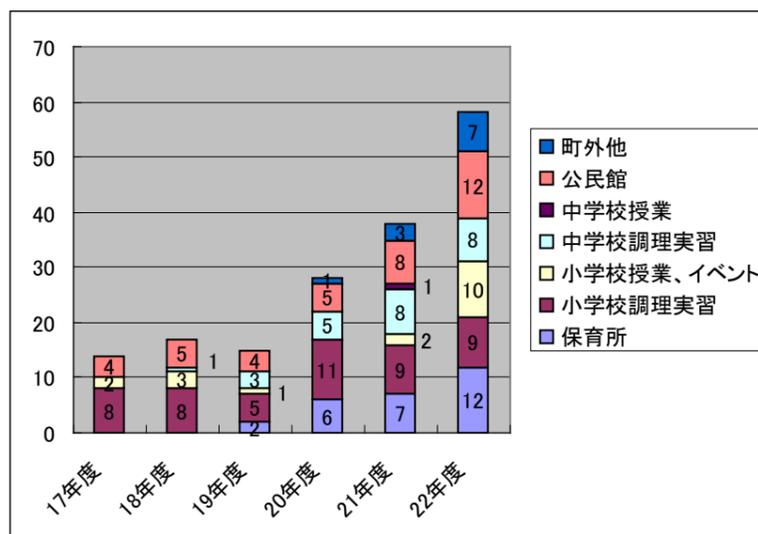
町内の小学生、高校生がデザインした「ぎょしょく普及戦隊 愛南ぎょレンジャー」



養殖漁業者と連携して実施した東京都での「魚殖」の授業風景。天然マダイと養殖マダイの違い実物のマダイを提示しながら説明します。

「ぎょしょく教育」の広がり

愛南町は「ぎょしょく教育」発祥の地と位置づけられています。これは、平成17年に愛媛大学が提案した概念やプログラムを受け入れ、産・官・学の連携による取り組みが日本で最初にスタートしたためです。この事業の柱となる出前授業は、年々拡大を続け、22年度には町内全ての保育所・小中学校で実施することとなりました。さらに、20年度以降は、町外からの「ぎょしょく教育」出前授業実施の要望が増加を続けています。22年度からは東京都ぎょしょく普及事業(21年～23年の3カ年事業計画)との連携・交流によって、東京都内の小学校への出前授業が始まり、愛南町の「ぎょしょく教育」は、県内外への広がりを見せています。



上図：内容別授業実施件数の推移。

学校給食と「ぎょしょく教育」の連動

現在、町外での出前授業の増加に伴い力を注いでいるのが、学校給食での愛南町産水産物の利用の促進です。これは、授業実施の当日または前後に、本町産水産物を使った給食メニューを出すことで、教育的効果と産業的効果を創出することを目的としています。教育的効果としては、従来の授業展開で欠落しがちであった「魚食」を通じて魚の味を実感するとともに、学習した魚を給食で食べることで、授業内容をより身近なものに感じさせることを意図しています。また、産業的効果としては、出前授業がきっかけをつくることで、愛南町産の魚を利用した給食食材の販路開拓を目指すものです。これらの成果は、町外では特に東京都で上がっており、養殖漁業者による授業協力にもつながっています。



今後の展望

愛南町の「ぎょしょく教育」の普及は、「子ども達の魚好きを増やす」のみでなく、出前授業を行った都内小学校4校から先生方が本町に訪れるなど、生産地と消費地間での物や人の交流「産消交流」のきっかけともなっています。今後これらの成果をさらに高めることで、愛南町としての地域の魅力を高め、地域ブランドへと繋がっていくことが望まれます。そして、より多くの子供たちに「ぎょしょく教育」が広がり、おいしく愛南町産水産物を食べてもらえることを願っています。



町産マダイを使った給食メニュー。(写真上)
「鯛中鯛」(写真左)を探す人気献立